

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたい、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「マスクが街から消えた日」



直近の株式市場でマスクを供給する会社の株価が大暴騰しています。1月20日前後から、対岸の火事と思われた中国武漢市で広まった奇病が新型肺炎ウイルスの仕業とわかってにわか

に株式市場で関連企業が買われはじめたのです。
たまたま我が家ではマスクを買い急ぐ必要に迫られることはなかったのですが、念のための用心としてドラッグストアに立ち寄った時にはすでに商品棚からマスクが消えていました。人の流れを制限するのは訪日外国人で賑わう春節後にしようとな誰が判断したか知りませんが危機意識が甘かったのは明らかです。

当局の対応で国民がいらいだつのは、法規制によって不合理な制約を受け感染者が増えることです。「法規制により出来ない」と杓子定規では目の前で苦しんでいる人に諦めてもらう理由にはなりません。

現場で対応する関係省庁の役人は法と人命のどちらを優先するのかを問われる場面があるでしょう。公務員ともなればこの命題には必ず答えを用意しておくべきです。役人に対する国民のイメージは、試験勉強で仕事を勝ち取った人たちの自意識とは残念ながらかけ離れています。「事なかれ主義で要領の悪い連中」とレッテルを貼られない対応を願うばかりです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。
当社は2020年3月末まで、今年度卒業生の採用活動を行います。お問い合わせをお待ちしております。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「技術立国を名乗れない現実」



新型コロナウイルスへの緊急事態宣言が全国で解除されたものの、いっこうに「0」にならない新規感染者数を前に気が重い週末が続いています。休日に集約されるコロナ特集番組から入ってくる情報で負の刺激を受け、行動・移動リスクを意識せざるを得ないのです。

用心のためデジタル体温計を購入しようとドラッグストアや家電量販店を回ったのですがどこも売り切れです。マスクにつづいて体温計まで入手困難になっています。額にセンサーを当てるだけで体温を測れる非接触型体温計を社員の健康管理のために会社に置きたかったのですが、入荷時期未定で手に入りません。

いずれも中国メーカー製ばかりで、日本企業が国内製造する商品に行き当たりません。国内メーカーが儲からない商品なのか、中国メーカーとの価格競争では勝負にならないのか？

やむなくドラッグストアに水銀計タイプの体温計をさがしに行ったのですが、どこにも無い。これが自称先進国の一面であり、現実です。製造技術が簡易で低価格なものほど自分の国で作れなくなってしまう国、海外から安物を買えばいい国をして衰退するとはこういう現象を言うのだろう実感する出来事でした。



毎号、「マケタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。3月～5月の全国の学校現場閉鎖の状況に鑑み、その期間「マケタマルカ」はお休みしました。6月より再開します。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「Go To キャンペーンへの危機意識」

この国の政治家が大きな決断をする時、その一步を踏み出さざるを得ない状況になるまで事態を放置することで、世間の余裕を無くし、面倒くさい関係者への調整を省略できる口実を得ようとする姿勢を垣間見ることができます。

国家の危機に際し、国の舵を切るには混乱と犠牲者が必要な国「日本」なのです。コロナ禍のはじまりを振り返ると3月から4月にかけて有名芸能人がバタバタと亡くなり国民の緊張感がピークに達してもなお緊急事態宣言発出に及び腰だったのは記憶に新しいところです。

なぜ中国・武漢市で感染者が急増していた春節時期に中国人の入国制限が出来なかったのか、痛恨の極みとしか言いようがありません。国内に混乱と犠牲者が少ない時点では当時世界中から非難の矛先が向かっていた中国政府の反応を恐れ思考停止を決め込んだのです。

この国が決断に際し、時間だけでなく犠牲を要することは今も昔も変わりません。先の大戦ではもう2週間早く決断できたなら、広島も長崎も、北方4島問題も無かった。終戦を決められなかった指導者と、コロナ対策を犠牲者が少ないうちにこそやりきれなかった現在の指導者とは瓜ふたつに映るのです。

小中高の教育現場では林間学校や修学旅行が見送られています。一度決めたら戻れない体質もまた新たな危機を招くでしょう。「Go To キャンペーンへの危機意識」の希薄さが心配でなりません。



毎号、「マケタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。7月の初旬より全国の高等学校に求人票を発送しております。何卒、生徒様への求人情報としてお取り扱いをお願い申し上げます。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

ミットが響く「音」

終戦記念日を通り過ぎ、例年ならば夏の甲子園大会の決勝戦が近づいている時期です。この時期の暑さには大概の人が音を上げるものですが、この炎天下の中で地区予選から勝ち上がってきた高校球児の躍動する姿を今年は見る事が出来ないのが残念でなりません。

その一方で、プロ野球が無観客試合ながら開幕しました。テレビ中継を見ているとランペットや笛・太鼓が騒々しく鳴り響くことのないスタジアムが物寂しいと感じるところか、実に新鮮な発見をすることになったのです。私は忘れかけていたスポーツ本来の「音」に集中してしまっただけです。

まず、ピッチャーが投げた球がミットを叩く音が素晴らしい。その音に集中すると自然と球筋を追うようになります。その次にバットがボールを捉える音の違いがわかるのです。

会心の当たりのときの音、詰ってうち取られた時の鈍い音。これまで視覚に頼っていた映像に、聴覚への刺激が加わることでようやく高性能テレビがスペックどおりの仕事をしてくれていることがわかります。無観客試合になって、はじめて本場の臨場感を体感できるのはなんとも皮肉なものです。



毎号、「マケタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。7月の初旬より全国の高等学校に当社の求人票を送致しました。何卒、どんな小さなことでもお問い合わせください。誠意をもって説明いたします。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

企業は「働き方改革」学生は「学び方改革」を

コロナ禍がもたらした社会変革のひとつに在宅ワーク・オンライン学習を取り入れた働き方・学び方への適応が求められたことがあります。従来の通勤・通学を不要とする視点ではなく、より時間を効率的に使う社会への変化です。

これまで無意識に捨ててきた貴重な時間を仕事なり、学習なりに振り向けるだけで自分への立派な投資にできるのです。コロナ危機がもたらした瓢箪から駒として働き方改革と学び方改革につなげていきたいものです。

コロナ禍による大学生の困窮ぶりが話題となり「学費が払えないから学校をやめざるを得ない」「アルバイトを解雇され生活できない」といった主張が社会に対する抗議のような形でSNSから発信されるケースが目立ちます。私の通勤途中にあるコンビニ店では見るからに学生の外国人がきちんとした敬語で対応してくれます。彼ら、彼女らは文化の異なる外国住まいで働きながら生き抜いています。あまりに対照的な姿です。

コロナ禍にあっても今の日本で仕事が無いことはまずありません。正社員採用を除いたパート・アルバイトなら人手不足の業界はごろごろあります。特に小売り、外食、警備業、農業、配送・運輸どこをとっても人手不足は改善されていません。

その昔、新聞奨学生制度を活用する学生が身近にいました。社会に向かってSNSで「助けてください」と訴えられても首をひねりたくなる感覚を抱く世代もあるのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。7月の初旬より全国の高等学校に当社の求人票を発送致しました。何卒、どんな小さなことでもお問い合わせください。誠意をもって説明いたします。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

「脱ハンコ」の成否はいかに



技術立国を自任してきたこの国がいかに世界のIT化の流れからかけ離れた水準にあるのかをまざまざと知らしめたのがコロナ禍で判明した情報管理システムの貧弱さでした。

最新の感染状況を紙に手書きFAXで伝達、そのデータを電卓で集計しパソコンに入力することで時間ばかりかかり誤集計も多々あったことでしょう。ハードのスペックが優秀でもシステム化する発想力と運用力の欠如が旧態依然の非効率な作業を温存させてきたのです。この事例は民より官の方が深刻です。

その歯がゆさを政府も国民も共有しなくてはなりません。新政権の目玉人事が行革大臣とデジタル大臣らしいですが、この二人が旧来の「当たり前」をどこまで排除できるかにかかっているでしょう。

そのひとつにわが国のハンコ決裁文化を見直す動きがあります。ハンコが無いとはじまらないのは役所に限らず、民間企業も学校も、或いは町内会の会合でも同じでしょう。印鑑を押して、暗証番号をつくらせ、指紋認証をして、本人確認の免許証を提示して、いったい「確認」のためのコストをどこまでかければ気が済むのでしょうか。

印鑑登録というアナログシステムを作り上げ、いちいち印鑑以外に印鑑証明を役所で買わされる徴税システムは簡単にはなくならないかもしれません。私は政府の「脱ハンコ」の成否に注目しています。



毎号、「マケタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。10月16日より各拠点で入社試験を実施しております。今後は随時、入社希望者に対し受付を致します。何卒、どんな小さなことでもお問い合わせください。誠意をもって説明いたします。

松本 隆一郎

私は千葉県柏市で生活安全産業の一翼を担うべく、警備会社を展開する会社経営者です。ぜひ、新卒高校生の方々に当社の門をたたいて頂きたく、先生方、学校関係者の皆様に日頃から、経営者として思うこと、感じていることを綴ります。文化・芸能・教育・社会・経済・企業の問題と一緒に考えていきたいです。当紙の題名は私の人生訓であり、モットーでもあります。

GO TO騒動の消火栓

通勤電車やオフィス街の人の流れは完全にコロナ前と同じ状況に戻っています。政府はようやく重い腰を上げGO TO事業の停止を決断しましたが、前から窮状を発信してきた医療現場の声に顔を背けてきた反省と世論を再修正するまでには至っていません。

国民の目には「GO TO継続」と「出勤抑制・リモート要請」が矛盾する対応に見えるのです。新型コロナへの対応を自己判断に任せるある意味で高度な民主主義の実践なのでしょうが、そうした矛盾を押し通す政治家が国民の危機感の希薄化に大いに影響していることに気づかなければいけません。

国民は自分の生命は自身で守らなければいけません。ともかく個人がマスクと消毒で気を緩めないで行動するしかありません。ウイルスが活発化する秋～冬の乾燥期には感染者であふれかえる心配も現実のものとなっています。

私は昼食を外食で済ますことがほとんどなのですが、やはり店側の衛生管理の意識度合いは気になります。「この店に入るか。」と決める前に店内を覗いて混雑具合を確認、特にテーブル間の飛まつ感染対策の有無を見る癖がついています。

経営環境が激変した業種業態では、新型コロナ前と変わらない来客対応ではいけません。何のために持続化給付金を手にすることが出来たのかを考えている経営者の店と、そうでない店とは安心・安全度合いにはっきりと差が生まれるでしょう。

消費者は不便さに寛容になり、商売人はしっかり見える化された対策を取ることで信頼を得られればそれが売上回復以上の好結果につながる。そうした循環こそがニューノーマル社会を形成してゆくと思います。結果として私達ひとり一人の厳しい眼が、一連の騒動の消火栓となるのです。



毎号、「マケテタマルカ」をご精読いただきありがとうございます。本年も大変お世話になりました。学校関係者の皆様の更なるご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。来る令和3年も何卒、弊社をよろしくご愛顧いただきたくお願い申し上げます。

松本 隆一郎